

第一週
メッセージ
いのちの木

神である主は東の方エデンに園を設け、
そこに主の形造った人を置かれた。

神である主は、その土地から、見るからに好ましく
食べるのに良いすべての木を生えさせた。

園の中央には、いのちの木、
それから善悪の知識の木を生えさせた。…

神である主は人に命じて仰せられた。

「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。
しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。

それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

創世記 2:8～9, 16～17 新改

選択

善悪の知識の木曰く：

神に近づくために _____ (Do)

いのちの木曰く：

イエスが既に _____ 事実を受け入れよ (Done)

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。ヨハネ5:39~40 新改

善悪の知識の木曰く：

_____ ように頑張れ

いのちの木曰く：

神が既に _____ 事実を受け入れよ

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。ローマ5:8 新改

善悪の知識の木曰く： _____

いのちの木曰く： _____

神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。…御子を持つ者はいのちを持っており、神の

御子を持たない者はいのちを持っていません。

Iヨハネ5:3,12 新改

4つの応答

1. イエスを _____

もしあなたがたがわたしを愛するなら、
あなたがたはわたしの戒めを守るはずで
す。ヨハネ14:15 新改

2. _____ ではなく _____
によって神に仕え
る

わたしが来たのは律法や預言者を廃棄する
ためだと思っ
てはなりません。廃棄するた
めにではなく、成就するた
めに来た
のです。マタイ5:17 新改

3. すべての罪に対して _____
で応答する

こういうわけで、今は、キリスト・イエス
にある者が罪に定めら
れることは決してありません。
ローマ8:1 新改

4. 逆戻りから _____
を守る

私は何を選択するのか？

わたしは、きょう、天と地を呼んであなたがたに対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであろう。

申命記30:19 口語

第二週

善悪の知識の木

神である主は人に命じて仰せられた。

「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。

それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

創世記 2:16～17 新改

いのちの木は、聖書物語の単なる舞台背景ではなく、生き方になりうるのです。それがどのようになりうるのかを見つけるために、聖書の最初の書、創世記から始めてまいりましょう。第1章の最初に、天地創造について書かれており、権威と主権を持つ創造主、支配者である神について述べられています。聖書の2番目の話は、アダムとエバ、最初の罪、そしてエデンの園にある2つの木について教えています。

これが2番目の話であることには、理由があります。聖書の他のすべては、この話にかかっているからです。そこから、人間は日々、いのちの木か善悪の知識の木かを選択しなければならないということを学ぶのです。

いのちの木

自由、解放、恵み、永遠のいのち、神は善、神は赦される方
善悪の知識の木

束縛、律法、死に至らせる、神はただ裁き主、私たちは罪に定められる

聖書勉強する際に、その主題がどこに最初に見出されるかを調べることは良いことです。このFreedomでの神との交わりの旅路では、なぜ神から分離されるのか、なぜ何かに束縛されるのかを明らかにしなければなりません。聖書の中で最初に神からの分離について述べられている箇所は、創世記3章です。神が創造された最初の人、この分離をもたらす間違った選択をしたのでした。(ローマ 5:12 参照)

創世記3章以前は、アダムとエバは神と共に歩み、神の臨在を満喫していました。聖書によると、神のかたちに2人の人間を神は創造され、アダムにすべての被造物に対する統治権を与えられました。神はアダムに、アダムと築かれた関係を通して、その権威を与えられたのです。その関係なしには、アダムは権威を持つことはなかったでしょう。アダムとエバが罪を犯した時、彼らはこの権威を喪失したのでした。

策略と反逆を通して、神が人に与えた権威と統治を悪魔が奪ってしまいました。聖書曰く、サタン願ひは神の星々のはるか上に自分の王座を上げることでした(イザヤ14:13)。人のこの墮落以前は、サタンには支配する影響力に欠けていました。イエスは、サタンを「この世の支配者」と呼ばれました(ヨハネ12:31)。

コロサイ1:21に、私たちは「以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対」していたと書かれています。罪は分離をもたらし、この分離が、神が子らに与えられた自由や権威をサタンに引き渡してしまったのです。(ルカ10:19 参照)感謝なことに、神はこの分離を終わらせる道を作られました！イエスを通して神は、「その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。」(コロサイ1:20)

これより先に進む前に、神との関係を築き、自由の中を歩むためには、あなた自身が罪人であり、イエスが十字架上で血を流し、死なれたことによってあなたの罪の刑罰を受けられたことを受け入れることから始まるということを知らなければなりません。

イエスを心に招き、救い主となっていたいただきましたか？もしまだでしたら、下記のシンプルな祈りで、イエスをあなたの人生の主としてお迎えしましょう。

イエスさま

私のために十字架上で死んでくださり、神への道を備えてくださり感謝いたします。私はこの高価な贈物を受け取ります。そして私の心に入り、私の人生の主となってください。私のすべてをあなたに差し出します。私の人生をあなたの栄光のために用いてください。あなたの霊で満たしてくださり、あなたがいのちを差し出してまで私に与えてくださった人生を歩むことができるように助けてください。イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン

これこそが、自由な人生への最初のステップです！

分離と最初の罪

神である主は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。…神である主は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

創世記 2:9, 16~17 新改

創世記 3:1~8 を読み、誰が、何をしているかを見てみましょう。
7~8 節で、アダムとエバは何をしましたか？

.....

.....

創世記 3:9 を読みましょう。神は何をなされましたか？

.....

.....

ここ重要です。アダムとエバは身を隠しましたが、神は彼らを探しに来られました。聖書曰く、神は罪深い人間を捜し求めておられます。神は罪人を愛し救うために、独り子、イエスを送られました。

あなたの過去で、神から身を隠したいと思うようなことは、どのようなことですか？

ヤコブ 4:8 とⅡ歴代誌 15:2 を読みましょう。
これらの箇所は、神との関係について何を教えているでしょうか？

アダムとエバは、禁じられていた実を食べることによって罪を犯しました。この実は単なる実ではなく、善悪の知識でした。彼らはこの実で神のようになれると勘違いしたのです。この実について学ぶことによって、私たちが同じ過ちを避ける助けとなるでしょう。

あなたは神との関係の基礎を、神に対する知識に置いたことがありますか？

善悪の知識の木の实について

1. 実 は 知識

多くの人はこの実のことをリンゴか何かだと思っていますが、そうではありません。この木の実はまさしく聖書の言う知識(情報、データ、概念、世界観、思考パターン)、善悪の知識なのです。つまり神はアダムとエバに、「もしあなたがたの考え方を変えてしまうなら、私たちの間に分離をもたらしますよ。世界観を変えてしまうなら、わたしを理解できなくなり、関係を築くことができなくなりますよ」と言われたのです。しかしサタンは、「大丈夫だ」と言うのです。

神は決して、知識を得ることは間違っているとは言われませんでした。事実、神は預言者ホセアを通して「わたしの民は知識がないので滅ぼされる。」(ホセア4:6)とイスラエルの民に言われました。問題なのは、知識そのものではなく、それを得ようとする動機です。言い換えるなら、なぜ知識を得たいのか？ 神の知恵や英知を得たいからか？それとも、自分自身を高めたいからか？

私たちはみな知識を持っているということなら、わかっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。

I コリント 8:1b 新改

コロサイ 2:3 によると、キリストのうちには、何が隠されていると言っていますか？

.....

最初から人間には、賢くなりたいという願望がありました。神は、人間のその願望を喜ばれます。I 列王記に、神がソロモン王に夢の中で現れ、「何を願うのか？ 求めよ。それをあなたに与えよう」と言われる記事があります。ソロモンは一つのことを願いました。それは、イスラエル国家を治める知恵、すなわち善と悪を見分ける能力でした。

I 列王記 3:10～13 を読みましょう。

神はソロモンの願いにどのように応えられましたか？

神からの知恵は、この世からの知恵とは大きく異なります。私たちは、それら2つのそれぞれの特徴を見ることによって、その違いを見分けることができます。

神からの知恵:

純粹、平和を愛する、常に親切、進んで人に譲る、あわれみと善い行いに満ちている、えこひいきしない、常に真実

世からの知恵:

嫉妬、自己中心、世的、世俗的、悪意に突き動かされる

いつ私たちには知恵が必要ですか？ 常にです！ 私たちは絶えず決断を迫られ、たとえ小さなことであっても神からの知恵によって決断することができます。神を見倣い、神の知恵を用いることで、神に更に似たものとなるのです。神の知恵は、私たちが神へと更に近づけます。

この世の知恵は、私たちが神から遠ざけ、罪へと導きます。ヤコブ 1:5 は、「あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だれにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば、与えられます。」と言っています。

2. 実^①は死をもたらす

神である主は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

創世記 2:16~17 新改

自分の力で神を追い求めて、知識の木から食べる事(知識を食ふ事)は、死をもたらします。サタンはあからさまにエバを誘惑しませんでした。サタンは、「この実を食べたら、神のようになれる」と言ったのでした。サタンは神のようになりたいというエバの願望で惑わしたのでした。知りたいという願望と信頼したいという願望は、時に正反対であるということを知っておくことは重要です。私たちは神が私たちに世話をくださることを信頼するよりも、自分で人生をコントロールしようとする知恵を得ようとするところがあるのです。

創世記 3:22~24 を読みましょう。

なぜアダムとエバは、エデンの園から追い出されたのでしょうか？

.....

.....

アダムとエバが知識の木から食べても、その場で身体的には死にませんでしたが、靈的には死んだのです。アダムの不従順を通して、死が人類に入り、私たちは皆、復活を必要とする靈的に死んだ状態で生まれてきました。良い知らせとは、イエスを通して私たちはいのちの木を手に入れることができるということです。もし私たちがいのちである主イエスを敬虔に慕い求めるなら、私たちは真にキリストのように造り変えられることでしょう。

3. 実は吸収される

そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

創世記 3:6 新改

「食べる」とは、単に口に食物を入れることではありません。それは「摂取する」「吸収する」という意味です。つまり、私たちの心にその考えが吸収され、罪がはらむのです。最初の罪はどのように入ってきたでしょうか？エバがアダムに話したことによってでした。その会話を通して、彼らはその考えを吸収し、消化し出したのです。この一連の流れは、罪とは行動で始まるのではなく、私たちの心の中で始まるものであることを教えてください。

何を吸収するかには、細心の注意を払わなければなりません。なぜなら私たちの人生に継続して影響を与えるからです。例えば、何らかの映画やテレビ番組を見ることは、あなたの残りの生涯に悪影響をもたらすかもしれません。同様に、ある種の思想を読んだり学んだりすることは、あなたの心を毒す可能性があり、破滅と絶望へと追いやります。子どもがどのようなものに接するかを親が特別注意するように、私たちも自分自身が何に接するかと同じ注意が必要なのです。

4. 実は分離をもたらす

人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

創世記 3:8b 口語

再度思い出さないといけないことは、人が神から隠れたということです。多くの方は、アダムとエバが罪を犯し、神がその聖さと義のゆえに、罪深い人間から背を向けたと教えますが、聖書はそう言っていません。聖書が言うには、アダムとエバが罪を犯し、彼らの目が開かれ、身を覆い、神から身を隠したのです。なぜなら、彼らは恥を覚え、神を恐れたからです。彼らは神が罪に対してどのように応答されるか見誤りました。神は木陰から見ていたのではなく、まさにその現場を直視されていたので、彼らを裁くことができました。神は園の中で彼らを探しながら、「あなたはどこにいるのか？」と声をかけられました。なぜなら神は彼らを愛していたからです。神は私たちが罪に陥ることを期待して見ておられた訳ではありません。神は愛であり（Ⅰヨハネ4:8）、「愛は多くの罪を覆う」（Ⅰペテロ4:8）と言います。神の私たちに対する思いを知る時、私たちが罪を犯しても、神から隠れるのではなく、神に駆け寄り、寄り添うことでしょう。

ローマ 8:38～39 から、神の愛から私たちを引き離すことができないものをすべて書き出しましょう。

善悪の知識の木は、恥と被害者意識をもたらす

彼(アダム)は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」すると、仰せになった。「あなたが裸であるのを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

創世記 3:10~13 新改

善悪の知識の木は、私たちから純真さを奪ってしまいました。

この状況がどのような過程で起こるのか、一つの例を挙げてみます。両親にとっていつも大きな喜びである青少年がいました。爽やかで情熱的、好奇心旺盛で自慢の息子。しかし、母親は息子の変化に気づき始めました。息子が気難しくなり、怒り、肩を落として帰宅し、うなだれている。目の輝きは失われ、親と会話することなく、自分の部屋に閉じこもる。ある日、母親が彼の部屋にある洗濯物を拾い集めていると、ベッドの下から成人向け雑誌が出てきました。母親はここで理解しました。明るく聡明な息子は今や、闇の部分に陥っている。彼の純真さは汚染され、もう幼い子どもではない。これらの雑誌内にある悪い知識は、彼の人生において暗闇の世界を前進させる。その雑誌で彼が目にする全ては、知る必要のないものです。彼は自分自身の中に暗闇を許し、恥で満ち、かつてのように両親と接することができなくなる。これは、親が息子から距離をとったのではなく、罪のゆえに、子自身が恥の内に離れていったのです。子どもはもはや純真ではなくなってしまったのです。

恥は私たちを神から引き離します。キリストが私たちに与えられる自由を享受できなくしてしまうのです。恥は神と私たちの間を隔てるベールのように、私たちを完全に覆い、目も覆ってしまい、神がどなたで、どこにおられるのか、ぼんやりとしか見えなくさせてしまいます。神はアダムとエバに、「あなたがたが裸であるのを誰が教えたのか？」と聞かれました。きっとその口調は、あの少

年のお母さんのように、大きな悲しみと懸念に満ちていたでしょう。「この雑誌、誰にもらったの？あなたはこの内容を知る必要がないわよ。」神は私たちに善悪の知識の木から食べることを願われていません。なぜなら、神と私たちの間に、恥のように障壁をもたらすからです。その障壁は神の心を傷つけます。神は私たちに近づくことを願っておられるのです。

恥は、神と親しくなることを妨害するあらゆることを私たちにさせます。恥は隠れたい気持ちにさせます。禁じられた実を食べる前は、アダムとエバは二人とも裸で恥ずかしいとは思っていませんでした(創世記2:25)。その後、彼らはいちじくの葉を合わせ身を覆うようになり、神の臨在から隠れるようになったのです。

恥の結果

1. 宗教で身を覆い、行いに焦点を合わせ出す
2. 嘘、偽り、間違ったプライド
3. 約束を破る
4. 何かをすることで自尊心を得ようとする
5. 自分には価値がないと思い込み、神に対して素直に進み出ることができない
6. 救い主に焦点を当てるよりも、自分の罪に焦点を当ててしまう

なぜ恥はこれほどまでに破滅的なのでしょう？なぜなら私たちから変わる力を奪うからです。私たちの罪のために神がイエスの血潮を通して用意されているものを受けられないようにするからです。罪責感と恥は異なります。罪責感は、私がしたこと(行為)についてですが、恥は私が誰か(存在)についてです。罪責感があっても、新しいスタートをきることはできますが、恥があると問題が私たちのうちに留まるので前に進むことができません。実際、恥があると、私たちの存在自体が問題となるからです。恥から解放されるためには、神が私たちを見ておられるのと同じように、私たち自身を見なければならぬのです。

あなたは恥を克服しましたか？ あなたの人生から恥の障壁を取り除くために、どのような段階を踏むことができますでしょうか？

善悪の知識の木が私たちのうちに恥をもたらすように、それはまた被害者意識に汚染させます。被害者意識とは、私たちの罪に対する自然な反応です。エバは、「悪魔が私にさせたのです」と応答しました。またアダムは、「あなたが私に与えた女が私にさせたのです」と応答したのです。私たちは人のせいにし、責任転嫁するのです。私たちが人のせいにする時、人の行為に焦点を当てることによって、自分の内側の状態や難しい外面的環境を言訳するのです。「夫さえちゃんとしてくれたら、もっと幸せで、思い通り行くのに」と言ってみたり、「家族が議論好きでなければ、イライラしないのに」とか、「皆がすべきことをしさえすれば、全てうまくいくのに」というように言訳や責任転嫁をするのです。

被害者意識の結果

1. 自分自身の罪には鈍感だが、他の人の罪は目につく
2. 言訳と自責で、「どうせ私はこうだから。変われないし、しかたない」と言う
3. 拒絶されたと感じる

人のせいにして、言訳したり、自分自身を責めたりすることによって、被害者意識を抱いたとしても、私たちに変わる力が与えられる訳ではありません。これが被害者意識が破滅的な理由です。

あなたの人生のどこかに、たとえば、両親との関係や過去の誰かとの関係、結婚生活において、職場で、友人間で、あるいは教会の中でさえも、被害者意識を抱いてしまう領域はありますか？その状況について、あなたの考え方をどのように変えるべきだと思いますか？

被害者意識と恥を抱くと、私たちはパリサイ人のようになるか、姦淫の現場で捕らえられた女性のようになってしまいます(ヨハネ8)。つまり、自分の言動や功績をベースに神や人との関係を築き、「自分以外の人がだめだ！」と言うか、「自分はだめだ！」と言うかのどちらかです。しかし、神はそのような物の見方を願ってはおりません。それは善悪の知識の木の考え方であり、私たちを変えることを妨げ、神と親しくなれないようにするのです。これは悪しき敵が私たちを変えさせないでおこうとする罠なのです。悪魔は、責任転嫁と自責の世界に私たちを留まらせておきたいのです。

たとえどのようなことがあったとしても、私たちは自分の人生の責任を負うという地点に到達しなければなりません。神と良質の関係のためには、これ以上、人のせいにすることはできないのです。

善悪の知識の木の実には、心を造り変える力はありません。知識や情報を提供することはできても、いのちを与えることはできないのです。

イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

ヨハネ 8:12 新改

第三週

いのちの木

兄弟たち。

あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。

ガラテヤ 5:13a 新改

先週、私たちはエデンの園にある2つの木について、それぞれがどのような生き方を表しているかについて学びました。善悪の知識の木とその破壊的な実が、恥と被害者意識に導くことを詳しく見ました。今週は、神や私たち自身に対する間違っただ概念から自由と解放をもたらすいのちの木について見ていきましょう。

適切に使われていない弱った筋肉は、筋トレなどで力を得ることができます。私たちは神の言葉を読むことによって信仰を建て上げ、聖書的真理にそった考え方へと再訓練しなければなりません。ウエイトが重い時、重量挙げ選手を励まし、助ける補助者が必要なように、私たちにも信仰を建て上げる過程において、協力やサポートが必要です。このスモール・グループは、参加者が本当の自由と解放の中でどのように生きるのかを助けるために考案されました。

このグループを進めながら、あなたはいかなる状況に直面しても、いのちの木の考え方をを用いることができるようになるでしょう。神の命令は決して重荷になるものではないことを忘れないください。事実、神に近づけば近づくほど、神の声の聴き方を学べば学ぶほど、あなたに対する神の御心を見出すようになるでしょう。神から与えられた計画は、神のためではなく、あなたのためにあるのです。神はただあなたを危険から守り、あなたの成功を願っておられるのです。

ゼパニヤ 3:17 を記入

いのちの木に生きる実

1. いのちの木は、神との交わりへと導く

その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。

ヨハネ17:3 新改

Vine's聖書事典によると、この箇所にある「知る」とは、ギリシャ語でginosko、すなわち、理解する、認識する、完全に分かるという意味があります。この単語は、関係を示唆しています。豊かな人生(いのち)を経験する唯一の方法は、生きておられる神を本当の意味で知ることによってです。神はイエスの犠牲を通して、その惜しみない愛を明らかにされた後に、私たちに神を愛することを求められました。「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハネ4:9～10) Iヨハネ4:19に、私たちが愛する唯一の理由は、神がまず私たちを愛されたからだと言っています。

神は私たちをあまりにも愛するあまり、独り子を送り、十字架上で死なせました。それは、神との関係を私たちが築くことができるようにするためでした。十字架は、犠牲の死以上のものを表しており、それは約束、血の契約、神と私たちとの関係について決して心変わりされないという確信を持つことができるようにしてくださいるものなのです(ヘブル6:17～18)。旧約聖書において、神は人と契約を結ばれましたが、人は常に契約を破りました。今神は、独り子イエスの血潮でその契約を封印され、何ものも神の愛から私たちを引き離すことができないようにされました。

2. 神との交わりが、純真へと導く。その逆ではない。

「彼らは自分たちが裸であることを知った。」(創世記3:7 新改)
私たちが神と共に歩む時間を過ごす時、神の声を聴き、神に話しかけ、神に従い、神を礼拝し、神を喜ぶ時、私たちの外側だけではなく内側にも変化が起こることに気づくでしょう。 私たちは神の御前である意味「裸」、つまりガラス張りで、丸見えの状態になるでしょう。

創世記3:7の「裸である」とは、純真を意味します。アダムとエバは、神から何かを隠す必要があるなんて考えもしませんでした。彼らに罪意識はありませんでした。お風呂上がりに小さな子どもたちが裸で走り回っている様子を考えてみてください。何も恥ずかしいとは思っていません。子どものような純真さは、素晴らしい美点です。アダムとエバの裸の状態は、彼らの人生の罪のなさ、純真さの一部でした。彼らが罪を犯す前は、何も恥じるものはなかったのです。これは、天の御国に入るには幼子のようにでなければならぬとイエスが言われた概念と同じです(マタイ19:14)。厳密に言えば、子どもたちに罪がない訳ではありません。ただ自分に対して何の恥じらいがなく、罪責感や恥、重荷で悩まされてはいません。

I コリント14:20では、「兄弟たち。物の考え方において子どもであってはなりません。悪事においては幼子でありなさい。しかし考え方においてはおとなになりなさい。」神は私たちに考え方において成熟することを願われます。しかし、神の御国があなたのうちに力強く働くために、幼子のようなスピリットを育まなければなりません。幼子のように、無邪気であるとか、単純な心のように聞こえるかもしれませんが、それこそ、聖書的な生き方なのです。イエスは、蛇のようにさとく、鳩のように素直でありなさいと言われました(マタイ10:16)。この組合せは、私たちが生きるこの世にとっては謎めいた珍しいものです！パウロはI コリント1:27で、「神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び…」と言っています。神との関係を慕い求めるために、誤解されてもいいじゃないですか！なぜなら、心の聖い者だけが神を見るからです。

誠実な純真さは、神との友情から生まれます。それは私たちが神のうちに安らぐ時、起こります。私たちが神の恵みと臨在のうちにとどまるなら、誰かに傷つけられても、怒りではなく優しさで応答することができるのです。神の像へと変えられる時、私たちは世の否定的なものから影響を受けにくくなっていきます。もし私たちが真に純真なスピリットで歩むなら、敵は力をなくすのです。もし罪を犯したなら、私たちは赦しを受ける方法を知っているし、誰かに傷つけられたなら、赦す方法も知っています。

マタイ 5:39～44 とルカ 6:27～36 を読んで、イエスは純真さと自由の中で神の子としてどのように生きるべきかを教えています。御言葉を参照しながら、純真に生きるとはどのようなものか、書き記してみましょう。

3. 純真さは、神の力の管となる

「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。」(ルカ4:18～19 新改)これは、イエスが荒野でサタンの大きな誘惑を受けた直後に言われた言葉です。彼は聖霊と力に満たされて、公生涯を始められました。聖書曰く、神はイエスに福音を伝えるために油を注がれたと。何かをするために「油を注ぐ」とはどういうことなのでしょう？それ

は、聖霊によって力が与えられるという意味です。私たちが聖霊に満たされ、イエスのうちにとどまる時、私たちの人生における暗闇の働きから自由になるのです。私たちは神のために用いられる尊い器となります。純真さは私たちの心と思いを聖く保ち、私たちに絶えず神が必要であることを覚える助けとなります。神により頼む態度は、聖霊の油注ぎの土壌を豊かにします。私たちが神を求め、人生を神に明け渡す時、すべての良い働きのために整えてくださるのです (Ⅱテモテ3:17)。

使徒 10:38 を、「イエス」をあなたの名前に、「ナザレ」をあなたの町の名前に替えて書き写しましょう。そしてそれを声に出して読みましょう。

.....

.....

イエスはヨハネ15:5で、「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」と言われました。純真さと力は常に、聖霊の賜物と御霊の実を生み出すのです。

4. 純真さは、自由へと導く

「キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。」(ガラテヤ5:1 新改)これは敬虔な歩みの奥義ですが、私たちは罪を犯し、墮落するにもかかわらず、いのちの木の態度のうちに罪を犯すと、すぐに赦しを受け、再び立ち上がることができます。どれくらい早く立ち上がれるかは、神の赦しの完全さをどれくらい理解しているかにかかっています。

詩篇 37:23～24 によると、敬虔な者が倒れるとどうなると言っていますか？

.....

.....

私たちが純真なスピリットで人生にアプローチする時、生活のあらゆる領域に対する生き方と考え方が変わります。もし私たちがいのちの木のうちに教会に行くなら、そのすべてを愛するようになるでしょう。牧師を愛し、人々を愛し、礼拝を愛するでしょう。なぜなら、教会に行く本来の理由に焦点を合わすからです。しかし一方、善悪の知識の木の考え方は、「賛美が長い。うるさい」「メッセージが簡単すぎる」「子どもたちが騒がしい」「誰も私にかまってくれない」というような思いに至らせます。純真さで生きるアプローチは、私たちの目の前のすべての人、教会、状況をこき下ろすのではなく、良い点に目を注ぐようにさせるのです。純真さが私たちに自由にするのです！

人間関係もいのちの木のうちに変化します。人々を無理な基準で見なくなり、赦すのに早く、怒るのに遅くなります。人々に自

分の必要を満たしてほしいと期待するのではなく、人々に仕える方法を探し出すのです。なぜなら、私たちはイエスと神の御国のために生きており、人々を利用するのではないからです。これが本当の自由なのです！

聖書を読み、祈り、人に仕えることは、いのちの源であり、安心、力、喜びであるべきです。これらは、しなければならない宗教的義務では決してありません。いのちの木の純真さの中で、私たちは責任としてではなく、関係のゆえになされるものだと認識するのです。イエスを愛することは、義務感から献身的愛へと変え、美しく素晴らしいものなのです。いのちの木の中で生きる時、祈りは力強くなり、聖書を読むことは霊を回復させるでしょう。クリスチャンがしなければならないことだと、自責の念にかられて、一日20章も聖書を読むこともなくなるでしょう。宗教は「もっとやって苦しめ！」と言いますが、関係は「もっとやってイキイキしましょう！」と言うのです。

あなたは神の御前で完全に純真だと感じますか？

神と本当の交わりを持つとはどのような感じだと思いますか？

こういふわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

ローマ 8:1～2 新改

いのちの木のうちでの生き方

さて、私たちは思考や行動、神や人との関係における束縛から解放されることが可能であるということを知りました。ここで、豊かで自由な人生を建て上げる堅い土台を築く助けとなる力強い真理を見ていきましょう。善悪の知識の木の影響から抜け出し、いのちの木の生活の光へ入っていくために、イエスがどなたで、イエスのゆえに私たちが誰なのかを知らなければなりません。この理解を助けるために、「心を新たにすることによって、造りかえられ」(ローマ12:1～3 口語)する必要があります。

いのちの木のうちに生きる助けとなる、いくつかの真理を見ていきましょう。

いのちの木のうちに生きるためには、父なる神との関係が最も重要であることを覚えなければなりません。神との正しい関係を享受するために、神の私たちに対する大きな愛を受けなければなりません。ローマ5:8で、神は私たちに対する大きな愛をこのように示されたと言っています。「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださった」(新改)私たちが神を慕い求める前に、神と関係を築くことのできる道を備えられたのです。神がまず先手を打たれたのです。

十字架の完成された御業により、私たちは神の御前で義と認められました。ローマ5:1は言います。「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」多くの人が、まさに奴隷のように、義務や恐れゆえに神に仕えてきました。奴隷には、求められることをしなければならぬ義務があります。誠実さが求められ、さもなければ自分が苦しむことになるでしょう。しかし、子どもは家族の一員であるがゆえに仕えるのです。子どもが誠実なのは、父に対する愛ゆえです。イエスの犠牲ゆえに、神はいまや私たちのことを子どもとして見ておられるのです。

ガラテヤ 4:7とⅡコリント 6:18 を読みましょう。

神はあなたのアイデンティティについて何とされていますか？

.....

あなたは子どもとして生きていますか？ あるいは、奴隷として生きていますか？

.....

いのちの木のうちか、善悪の知識の木のうちか、あなたが生きることのできる2つの環境を覚えることです。自分自身がいのちの木の反響や態度をあらゆる状況で選択することができることを知ることは、自由のうちを歩むために極めて重要です。いのちや敬虔で応答することは日々の選択です。聖書全体を通して、神は敬虔な決断の実と不敬虔な選択の実とを比較されています。もちろん神の願いは、私たちが敬虔な実を結ぶ人生を歩むことです。そのためには、神の方法、すなわちいのちの木を選択する以外ないのです。

マタイ11章でイエスは、イエスの生き方とパリサイ人たちの宗教的生き方を比較されています。パリサイ人たちは、律法的、自己義認的でした。彼らの神に対するアプローチは、ユダヤ教の律法を厳格に守ることにありました。

マタイ11:28～30を読んで、律法を守ろうとすることからくる重荷に対するイエスの反応を書き出してみましょう。

申命記30:19を読んでください。モーセはイスラエルの民に、どちらの道を進むのか決断するように迫りました。片方の道は、いのちへと導くものであり、もう片方の道は死へと導く道です。モーセは強く勧めました。「あなたはいのちを選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きながらえることができる」と。

毎日、いのちある決断をすることができるように、主に助けを求めましょう。一日の中で、難しい決断や状況に直面した時、一旦立ち止まり、自分の動機を吟味し、神に知恵を求めましょう。私たちの思考や反応を再訓練するには、時間がかかりますが、私たちは成功、失敗、両方から学び、成長するのです。神はあなたを愛しておられ、あなたの味方であることを覚えてください。恵みは神が与えてくださるものなのです。

あなたの日々の反応や決断は、他の人にいのちをもたらしていますか？
あなたは何の木の下に生きていることが多いですか？

神の言葉、聖書が正しいという事柄にそって、あなたの心を新たにしてください。変えられるには、神の言葉が人生について何と言っているかを理解することです。自分の世界観や過去の経験が、真理に対する私たちの見解を形成することがよくあります。自分が真理だと思う事柄に聖書を合わすことはできませんが、自分の信念を聖書の真理に修正しようとすることはできます。そうするために、御言葉を吸収しなければなりません。私たちの内側の真理を変えるなら、外側の反応が変わっていくでしょう。

ローマ12:2(新共)、「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」この世に倣うなら死へと向かうでしょう。神の御心はいのちへと導くでしょう。

Ⅱコリント10:5によると、すべての思いは、神の正しさに吟味されるべきだと言います。もし聖書が言うことと合っていないのなら、その思いを捕らえ、神の言葉に服従させなければなりません。これは、自分の感情や信念より、神の言葉を優位にする訓練をする時、あなたの生き方となっていくでしょう。つまり、ただ聖書を読むだけではなく、聖書の通り生きるのです。

エペソ4章でパウロは、聖霊によって私たちの考え、態度を新しくされ、真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきだと言っています。これらは、私たちが意図的に選択することなのです。自分の考えや態度、信念を神の言葉のうちに新しくすることを選択しなければならないのです。そして聖さと義しさを身に着けると選択しなければならないのです。そうするなら、いのちの木の人生を経験し始めることでしょう！

ピリピ 4:8 を読み、あなたの心を新しくする方法を書き出しましょう。

.....

第四週

靈的優位性

平和の神ご自身が、

あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。

主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、

あなたがたの靈、たましい、からだを完全に守られますように。

I テサロニケ 5:23 新改

日々のいのちの木を選択し生きるために、以下の2つを頭に入れておく必要があります。神はあなたを3つの部分から造られたということ、そして靈的優位性の原則を理解する必要があるということです。靈的優位性を理解することにより、人生の中の罪から解放され、聖さと自由の内を歩むことができるのです。私たちはクリスチャンとして、神と交わりながら生きることを願います。しかしそう願ってはいても、神と交わる生活というのは、自然にできるものではないのです。園での墮落から、人間の内には、聖くなりたいという願望と罪の本質が格闘し続けているのです。使徒パウロは、人間には善を行いたいという願望と、生まれながらに悪を行おうとする内側の葛藤があると言います。

神は私たちが3つの部分から造られた:

1. 贖われるべき霊
2. 回復されるべき魂
3. 明け渡すべき肉

救われた時、私たちの霊はキリストの内に生きるようにされ、すぐさま神の御前に義しい者とされます(ローマ3:24, 5:1)。聖書ではこれを義認と呼び、「罪を犯したことの無い者」とされるのです。しかし、魂と体がキリストに似た者に至るには時間と労力を要します(エペソ4:12～13)。この段階的な過程を聖化といいます。

神は、私たちが栄光から栄光へと神の像に変えたいと願っておられます。私たちは神の声を聞き、聖霊によって導いていただかなければいけません。

ガラテヤ4:19では、パウロは聖化をプロセスとして表現しています。このプロセスにどのくらいの時間がかかるかは、神のことばを取り入れ、それを生活において絶対的真理として受け入れ、どのような状況の中でも実践しようとするかによって決まります。

霊

あなたは、自分がこの地で一時的な霊的経験をする肉の存在ではなく、一時的な肉的经验をする霊的存在であることを知っていましたか？ 神は私たちの霊を、3つの部分の中で最も大切なものとし、私たちが誰で、何をするか「指令センター」として造られたのです。

肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださったのです。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

コロサイ 2:13~14 新共

イエスの血潮が、神と永遠に友になることを可能にしました。神がこの代価を支払われたので、私たちは神と和解し、またアダムがかつて享受していた神との交わりを築くことができるようになったのです(Ⅱコリント5:18)。私たちは救われた瞬間、キリストの内に生かされ、永遠に贖われ、父の御前に義とされました。永遠のいのちと同時に私たちは聖霊を受け、即座に神との関係の中に入ることができるようになりました。つまり、キリストの十字架が死の隔たりの橋渡しとなり、交わり、対話、いのちの木に繋がる道を開いてくださったのです。

花婿と花嫁が結婚によって結ばれ一つとなるように、救われると、私たちの霊とキリストの霊が結ばれ一つとなるのです。

I コリント 6:17 を記入

あなたの霊が贖われ、義しい者とされたことを知るなら、自分自身への見方は、どのように変わりますか？

キリストと一つになった今、霊的真理と、善と悪を分別する力を得ました。神の声を聞くために、自分の生活を調整することができます。これは、ラジオを合わせるためにダイヤルを回すことに似ています。時に、放送に雑音(気をそらすもの、困惑、恐れなど)が入るかもしれませんが、主ご自身と主のなさる方法を求め続ければ、私たちの霊はその雑音を超えて、真理というチャンネルにダイヤルを合わせることができるのです。

I コリント 2:14 を読み、なぜこの世は神からのものを受け入れることができないのかを記入してみましょう。

魂

魂は、神の造られたものの中でも、最も美しいもののひとつです。魂は関係を経験させ、周囲の美しさに気づかせるようにしてくれます。私たちは考える知性、意志、感情をもって神の像に造られています。神は、私たちが神の言うことだけを聞くものとして造ることができましたが、そうではなく、私たちに選択する能力を与えられました。

魂は 3 つの部分から造られています：

1. 考える知性
2. 選択する意志
3. 感じる感情

以下のみことばを書き、それぞれが魂の 3 つの部分のどれにあたるか書いてみましょう。

箴言 2:10

詩篇 119:167

詩篇 139:14

ヨシュア 24:15 を記入

あなたの考えは感情によって左右されていますか？

体（肉）

創世記2:7で、神は私たちの体を地から形造られたことがわかります。体は一時的な家、または魂と霊を包含する枠の役割を果たしています。 I コリント6:19では、私たちの体は聖霊の宮だと言っています。旧約聖書では、至聖所と呼ばれる神殿の奥に神が臨在されたとあります。しかしイエスの死により、神殿の幕は裂かれ、神の臨在が枠から出て、すべての信じる者に内住されました。ですから意図的に自分の体を害するようなことをするべきではないのです。私たちの体は、神によって特別にデザインされ、神が私たちに用意された計画をこの世で行うために与えられているのです。

体には、良い欲求と悪い欲求があります。聖書は、肉欲のままに犯すいかなる罪にも気をつけるように言います。人はよく、神からの祝福を願いながらも、ギリギリまで罪を犯しがります。そのような罪の誘惑は、決して満足を得させることはありません。人は常にさらなる欲を満たそうとします。肉欲は一時的満足にしかすぎないにもかかわらず、もっと満足感を得たいという思いにさせ、その欲が満たされた後もまたさらに強い欲求をもたらすのです。このサイクルは、私たちが聖霊の力によって壊されない限り、何度も繰り返し起ってしまうのです。

あなたの行動は肉欲によって左右されていますか？

.....

.....

I コリント 6:12 (新改) を読み、空白を埋めましょう。

すべてのことが私には許されたことです。

しかし、すべてが_____。

私にはすべてのことが許されています。

しかし、私は_____。

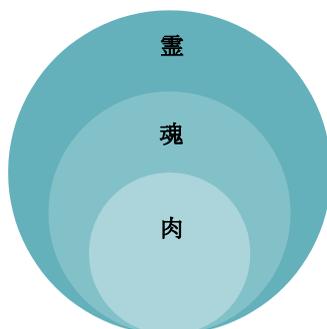
罪のもう一つの結果は、連鎖反応です。あなたの言動が、罪であるかないかの見極めは、「この行為は周囲にどんな影響を与えるだろうか？」で判断することができます。罪の結果と、罪が配偶者や家族、友達にどのような影響を及ぼすかを日々意識する必要があります。あなたのその行いは、他の人のつまずきになっていないでしょうか？

I コリント 8:9 を読み、天の父の心に耳を傾けてみましょう。

しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。

I コリント 8:9 口語

優位性のある生活



霊的優位性は、いのちの木のうちに生きるための枠組みとなります。あなたの霊が神と繋がって生きようになり、また魂と体が霊に従うようになります。つまり、神と一つになった霊が指令し、魂と体が従うようになるのです。ここで実際の疑問が出てくるのですが、救われたのに、なぜ罪に葛藤するのでしょうか？その答えは、聖化の過程と霊的優位性の原理にあります。私たちがイエス様に人生を明け渡すなら、いのちと敬虔に関するすべてが与えられます(Ⅱペテロ1:3)。しかし私たちの霊が優位でないため、葛藤することがあるかもしれません。私たちが最も留意するものが、最も影響力を持つでしょう。魂や体よりも霊を養う時にだけ、霊的に優位になることができるのです。

この世のものを見たり聞いたりすることによって、私たちの魂は常に影響を受けています。そして私たちの体は、お腹が減ると信号を送ります。魂と体は満たされないと、叫び始めますが、反対に霊は満足がないときには黙ってしまうので、意図的に霊を養わなければならないのです。

あなたは自分の霊を養うために何をしていますか？

.....
誰が支配するのか？

魂と体を優位にすることが当たり前になっているので、複雑で混乱することがあるのですが、次の例を見てみましょう。私たちは生涯の早い段階で、魂が指示を出すことを学習します。幼児が、したいままに床に寝転がったりするのを見たことがありますよね。子どもは何か欲しいとき、親が期待に応えるまで感情のままに行動を起こします。これは、子どもにしか当てはまらないと思いがちですが、大人も同じように振る舞う傾向があります。

ガラテヤ 5:19～21 を読み、魂の本質的を行いを挙げてみましょう。

.....

.....
聖霊が私たちの人生を支配するとき、私たちの内に、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制(ガラテヤ5:22～23)などの実を結びます。

ガラテヤ 6:8 によると、肉を満足させた人生を送る結果は何でしょうか？
また霊に支配された人生を送る人は、どうなるでしょうか？

.....

日々の生活

靈的優位性のうちに生きることには、素晴らしい益があります。神の守り、靈的成長、そして苦難に打ち勝つ力などです。しかし靈的優位性から外れて生きることは、大変危険なことであると知っておく必要があります。魂や体に支配させてしまうと、私たちの人生を狂わす敵に扉を開くこととなります。神の御心を選択し、神の支配に委ねるとき、私たちは敵から守られるのです。

詩篇 91 篇を読みましょう。

9 節と 10 節によると、何をしたら守りと安全を得るでしょうか？

私たちは神の御心を行いたいと願いますが、それができずに誘惑に陥るとどうなってしまうのでしょうか？私たちはそんな時、神と距離を置いてしまうのです。恥と罪責感を覚えるのですが、これは善悪の知識の木的考え方です。思い出してください、神は罪に定めることをせず、罪を示されます。神の御心にそった罪に対する悲しみは、悔い改め、すなわち、「方向転換」へと導くのです。

詩篇 66:18~20 を記入

霊的優位に歩むためには、聖霊の力が必要です。聖霊は私たちの助言者、友、導き手であり、真理を示してくださるお方です。

今日から、聖霊との関係を始めましょう。聖霊との関係を築くと、聖書を読むことがさらに楽しくなり、礼拝がより心に響くものとなり、祈りに力が増し、いのちの木のうちに生きることがさらに実践的で素晴らしいものになるでしょう。イエス様と歩むとき、人生は実に豊かになります。ここからがスタートなのです！